

横浜市におけるESDの取組

～教育（学習）効果の評価・普及～

横浜市教育委員会 学校教育企画部

小中学校企画課長 石川 隆一

1 横浜市 これまでの取組（平成28年度～30年度）

グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業

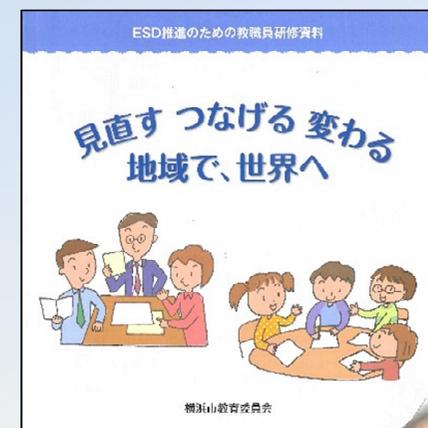


ユネスコのESDの会議でも次の言葉で、この4つのキーワードが重要だとしています

ESDを充実させる4つのレンズ  UNESCO2012

- **批判的なレンズ** 「見直す」
課程の再設定・捉えなおし、意味づけ、問いを持つ
- **統合的なレンズ** 「つなげる」
課題・資源・時間・空間をつなげる、関連づける
- **変容的なレンズ** 「変わる」
個人の変容、組織の変容、社会の変容
- **文脈的なレンズ** 「地域で、世界へ」
身近な文脈、世界の文脈、歴史や文化の文脈

このメガネをかけていながら見ていくことが大切です。



<教員研修資料>

1 横浜市 これまでの取組（平成28年度～30年度）

グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業

活動写真



ユネスコスクール全国大会での
横浜市の取組紹介



交流報告会での児童生徒による
ESDの取組の交流



交流報告会での
教職員のESDの実践交流

1 横浜市 これまでの取組（平成28年度～30年度）

グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業

- 横浜市ESD推進コンソーシアムの設立
- 推進校の指定と実践
- 東京都市大学 佐藤真久教授による支援
- 交流報告会・実践報告による成果の共有と発信

<実践報告>



平成29年度



平成30年度

2 教育（学習）効果の評価・普及に向けた取組

(1) 構成概念とESDで重視する能力・態度

【ESDの視点に立った学習指導の目標】

教科等の学習活動を進める中で、

「持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために

必要な能力や態度を身に付ける」ことを通して、

持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う。

持続可能な社会づくりに関する問題解決的な学習

【構成概念】(例)

- I 多様性
- II 相互性
- III 有限性
- IV 公平性
- V 連携性
- VI 責任性 など

【ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度】(例)

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的、総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する態度
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度 など

【ESDの視点に立った学習指導を進める上での留意事項】

- ① 教材のつながり
- ② 人のつながり
- ③ 能力・態度のつながり

教科等の授業設計・授業改善

2 教育（学習）効果の評価・普及に向けた取組

(1) 構成概念とESDで重視する能力・態度

・構成概念と能力・態度を明確にした授業研究会

「社会科、理科、道徳科」学習指導案

研究テーマ
持続可能な社会づくりを担う児童の育成
～ESD（持続可能な発展のための教育）の研究と実践～



時間	場所	単元名等・SDGs・ESD評価規準	指導者
3校時 10:45～11:30	2年1組 教室	16 持続可能な消費と生産 あたたかい心をとどけよう（道徳科） <目標16>身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする態度を養う。 構成概念 VI責任性 能力・態度 ⑦参加	
4校時 11:30～12:15	4年1組 教室	11 持続可能な消費と生産 安全なくらしとまちづくり（社会科） <目標11>安全に住み続けられるまちを知ろうとする。 構成概念 V連携性 能力・態度 ④伝達	
5校時 13:55～14:40	理科室	16 持続可能な消費と生産 植物の養分と水（理科） <目標15>身の回りの植物のつくりや働きと環境との関わりについての見方や考え方を育てる。 構成概念 I多様性 能力・態度 ③多面	

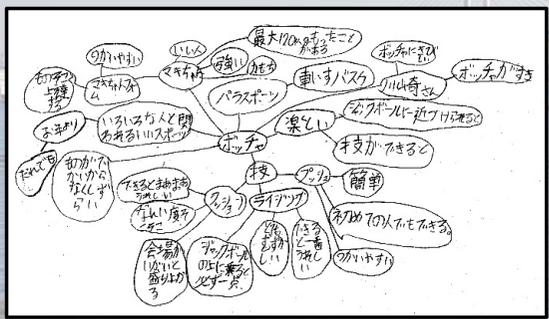
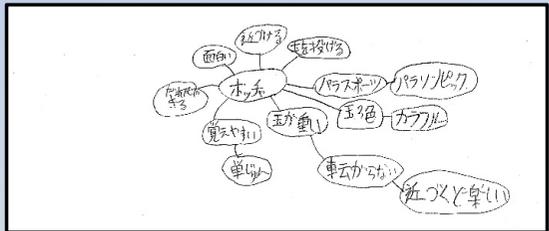
ESDの視点	構成概念	II 相互性		
	能力・態度		③ 多面 多面的、総合的に 考える力	⑥ 関連 つながりを 尊重する態度

③ ESDの内容と採択課題 食 ③感謝の心・食文化 本単元では、大豆が加工されてできている食品を調べたり、豆腐作りや大豆栽培を体験したりする活動を行う。それらの体験を通して、日本の伝統的な食文化を知るとともに、食に携わる方の思いを感じ取り、感謝の心をもって食べ物を大切にしようとするようにしたい。
4 ESDの視点 【構成概念 II相互性】 豆腐作りに携わっているKさんの思いにふたり、地域の農家のIさんに教わりながら大豆栽培に取り組んだりすることを通して、自分の食生活を支えている人々が互いに関わり合い豊かな食生活を支えていることが分かり、自分が食べ物を通していろいろな人に支えられていることに気付けるようにしたい。

2 教育（学習）効果の評価・普及に向けた取組

(1) 構成概念とESDで重視する能力・態度

- 調査やイメージマップ・テキストマイニング等で分析



いつまでもみんなが幸せに暮らせる社会につながる問題の解決に向けて大切にしたい考え		とても意識する	少し意識する	あまり意識しない	全く意識しない	
1	いろいろあるということ (多様性)	(例) 自分と違う考え方があるということに気付いた。自分と友達にはちがうところがあると気付いた。	3	2	1	0
2	関わり合っているということ (相互性)	(例) 地域の人や友達と協力しながら活動しようとした。友だちと遊んだり、勉強したりするとよいことがあることに気付いた。なかよし班で他の学年と関わり合おうとした。	3	2	1	0
3	限りがあるということ (有限性)	(例) 未来のことを考えて活動に取り組もうとした。使うものには、限りがあるということを意識して活動しようとした。水や食べ物等を大切にしたり、時間を守って生活したりしようとした。	3	2	1	0
4	一人ひとり大切にすること (公平性)	(例) 自分や友達、地域の人を大切にしようとした。友達に優しく話しかけたり、遊んだりしようとした。	3	2	1	0
5	力を合わせること (連携性)	(例) みんなが幸せに生活できるように協力しようとした。意見が対立しても、それぞれの立場を考えて話し合おうとした。	3	2	1	0
6	役割や責任をもつということ (責任性)	(例) 自分で考え、自分から進んで行動しようとした。委員会活動の自分の仕事に、人任せにせず責任をもって取り組もうと意識した。そうじ当番や、給食当番をしっかりと取り組むことの大切さに気付いた。	3	2	1	0
今の自分ができていること			よくできている	できる	できな	い
・友達の考えや意見、本やインターネット、テレビなどの情報を「本当かな？」と自分なりに考						

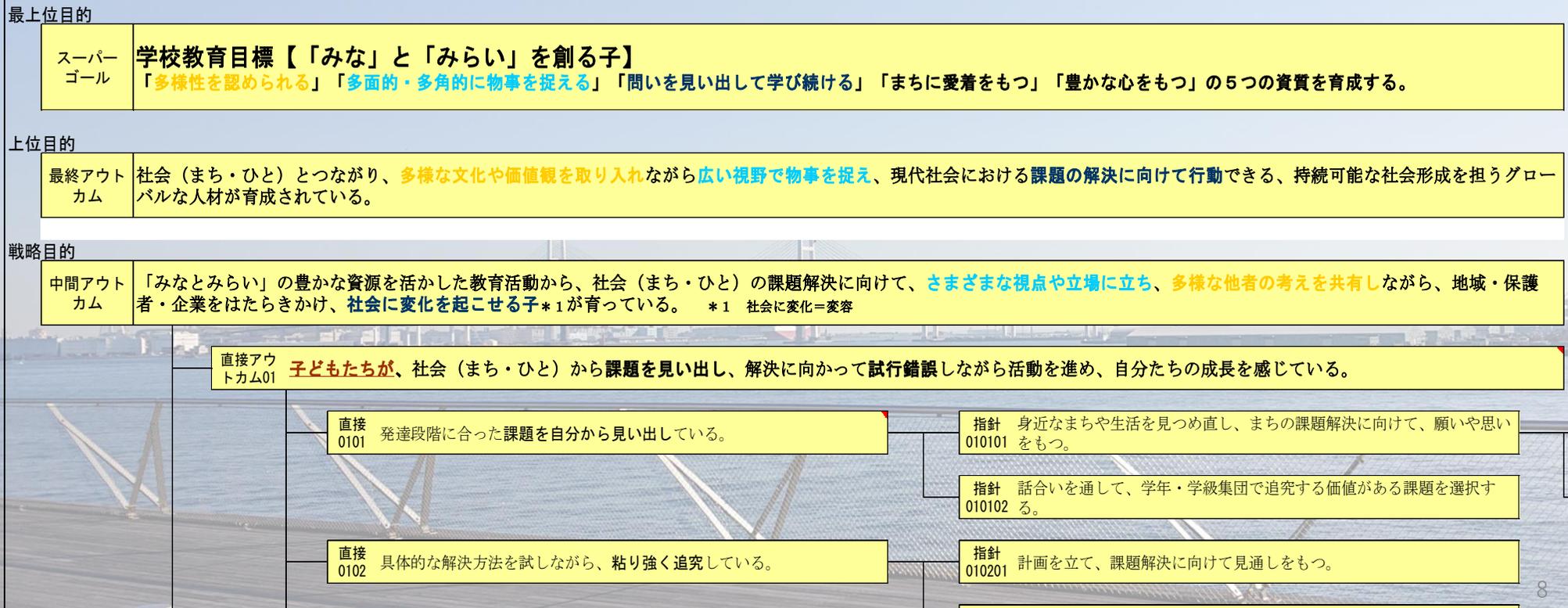
	とても意識する	少し意識する	あまり意識しない	全く意識しない
関わり合っているということ (相互性)	70	54	8	0
限りがあるということ (有限性)	51	59	20	2

授業・学習の改善へ活用

2 教育（学習）効果の評価・普及に向けた取組

(2) 協働型プログラム評価の導入

みなとみらい本町小 ロジックモデル（案） ver1.23



2 教育（学習）効果の評価・普及に向けた取組

(2) 協働型プログラム評価の導入

- 現場の教師によるロジックモデルの構築
みなとみらい本町小(平成30年ユネスコスクール全国大会開催)
- 東洋大学 米原あき教授の支援
- 「カリキュラム・マネジメント」の発想と親和性高い
- 「社会に開かれた教育課程」として再構築

2 教育（学習）効果の評価・普及に向けた取組

(3) 国連大学の調査への研究協力

～モニタリング・評価枠組みと改善メカニズムの構築～

- ・ 東京大学北村友人准教授のチーム研究に協力
- ・ 質問紙調査の実施・分析

<今後>

- ・ 調査結果を基に、児童生徒を対象とした調査へ

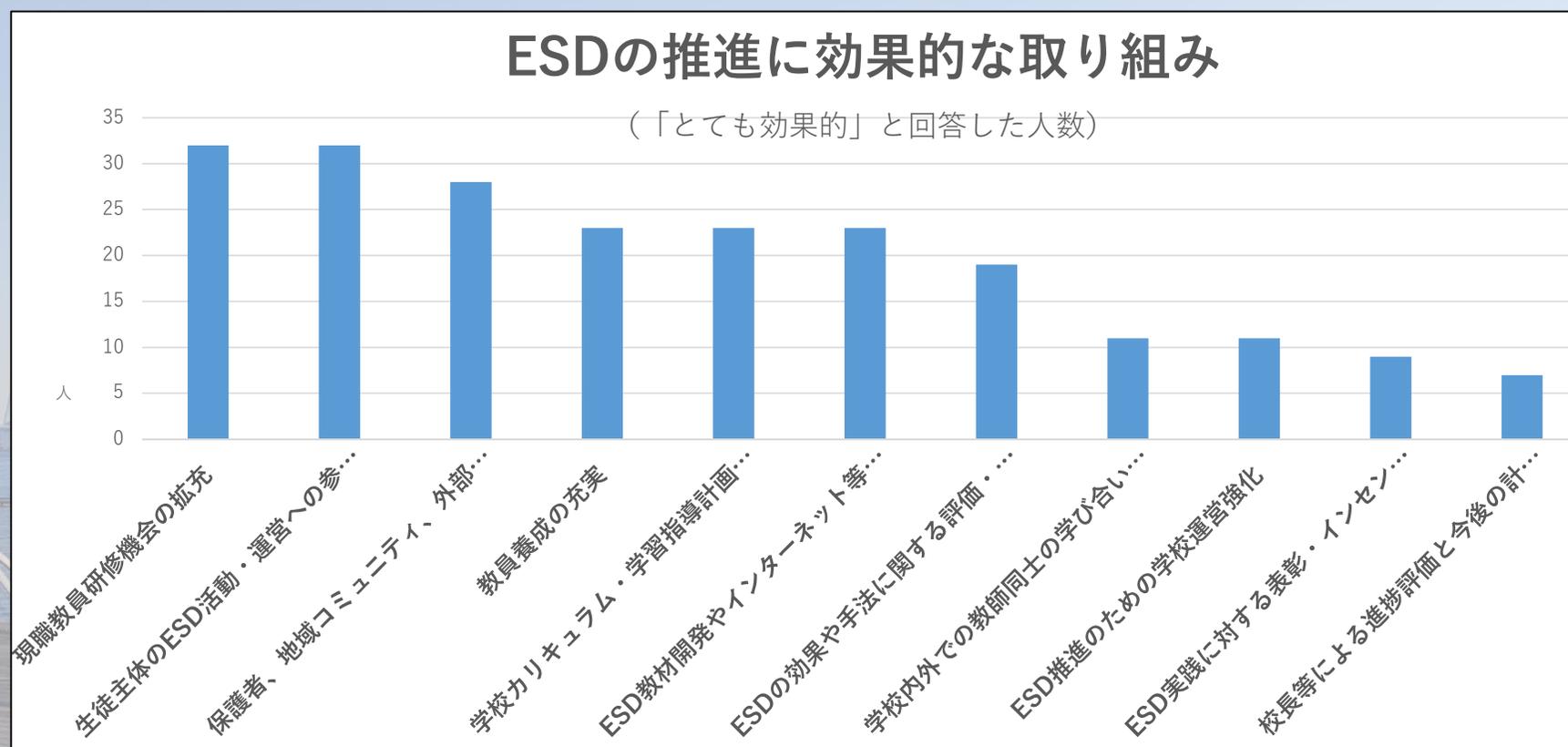


<調査の説明 推進校研修会>

2 教育（学習）効果の評価・普及に向けた取組

(3) 国連大学の調査への研究協力

～モニタリング・評価枠組みと改善メカニズムの構築～



2 教育（学習）効果の評価・普及に向けた取組

(3) 国連大学の調査への研究協力

～モニタリング・評価枠組みと改善メカニズムの構築～

ESD推進校の質問紙の結果から見えてきたこと

(教師が重要と考えていること)

協働・システム思考

(教師が成果として考えていること)

コミュニケーション・協働・つながり

(教師の回答が少なかったこと)

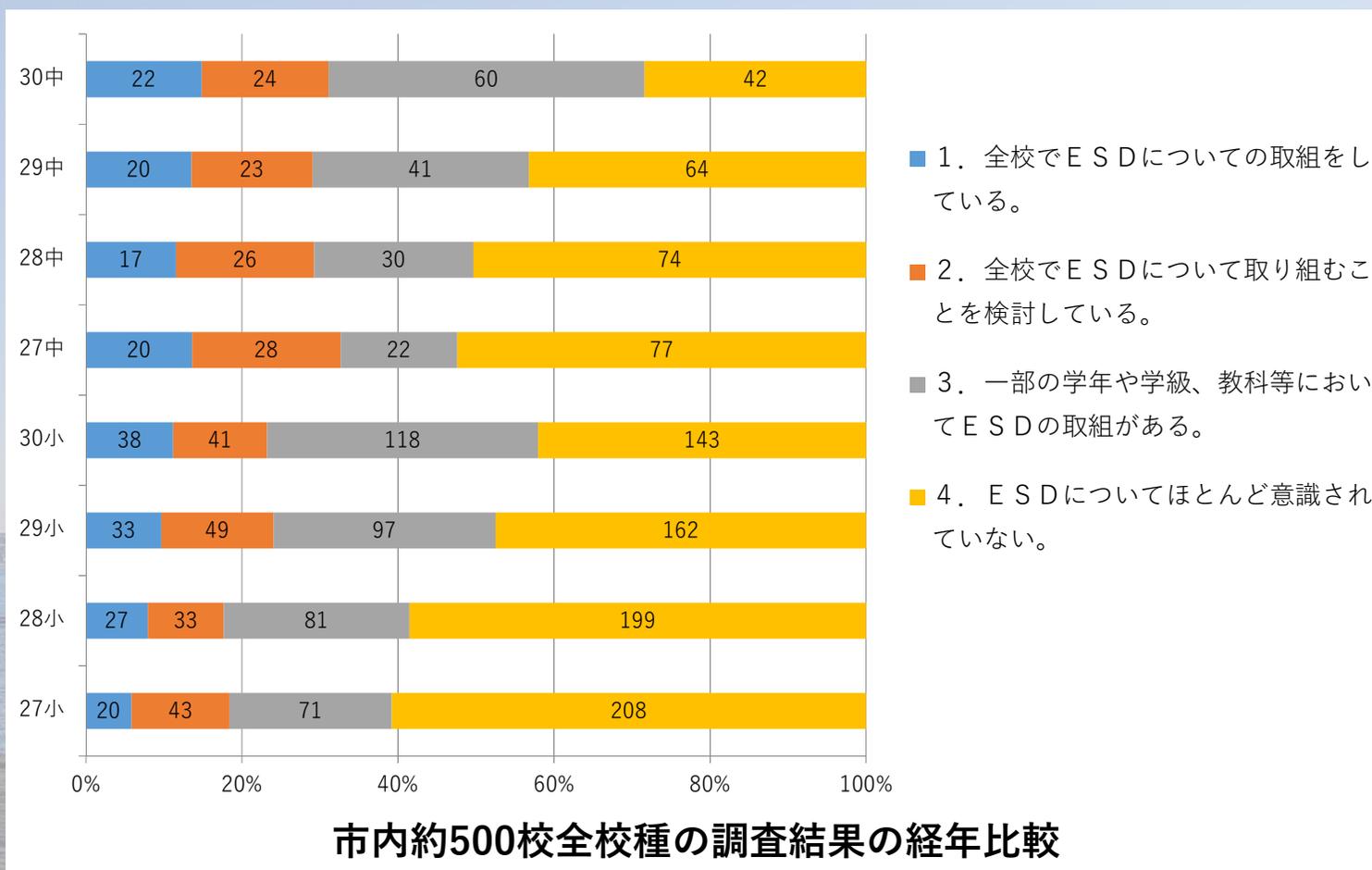
資源の有限性

基礎的・基本的な知識・技能

社会的正義や公正性、道徳的行動

3 今後の展望

教育委員会が担う「強み」を生かして



3 今後の展望

教育委員会が担う「強み」を生かして

○多様なステイクホルダーを繋いだ活動

(学校、教員、保護者、関係機関・団体、行政、大学)

○ESDの実践の価値づけと学校の文脈での見直し

- ・交流報告会の企画・実施
- ・モデル校での取組
- ・公開授業での助言、学校訪問によるヒアリング
- ・教職員研修の充実
- ・世界のESDの最新の潮流を踏まえた推進
- ・国連大学の調査研究への協力 等



3 今後の展望

教育（学習）効果の評価・普及について

- 「横浜市ESD推進コンソーシアム成果報告書」を作成し、他地域のESDコンソーシアム等に配布
- ユネスコスクール関東ブロック大会やユネスコスクール全国大会等で成果の発信